

新産建管第138号  
平成20年10月6日

国土交通省道路局長 殿

新篠津村長 東 出 輝



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日（国道企第37号）で依頼のありました標記について、別紙のとおり提出いたします。

本村は、道央に位置しておりＪＲ・国道がなく、特に自動車交通への依存度が高く道路は地域住民の生活や経済・社会活動を支えるもっとも重要な社会基盤となっており、道路網の整備は村民が長年にわたり熱望してきているところであり、計画的に推進されているものの道路の整備は、いまだに十分とは言えず高齢化、少子化が進展している中、特別豪雪地帯で冬期間の地吹雪等による厳しい条件等による交通障害などを解消し、地域における安全・安心な生活環境の確保、活力ある地域づくりを推進する上でより一層重要となっております。

行政サービスの効率化・適正化が求められている中で、高規格幹線道路から住民に最も密着した市町村道に至る道路網の計画的・体系的整備・地域構造の変化を踏まえた地方部の地域間を結ぶ幹線道路の整備は是非とも必要であり、道路特定財源の一般財源化に当っては、地方が必要とする道路の整備や維持管理に要する財源の確保と、地方の実情に十分配慮した道路整備が着実に推進できるよう要望いたします。

○現状

本村は、石狩低地帯に属し地形は平坦（標高 0 m～ 10 m）な地域で村全域（79 k m<sup>2</sup>）の約60%に当る面積が泥炭土壌地帯である。

本村のように国道・ＪＲのない地域での道路の位置付けは、他の町村の国道・ＪＲと同じくらいの重要な住民の生活道路であり村道の舗装率も59.7%と整備率も遅れている状況であるが。厳しい財政状況の中で限られた予算の範囲内で道路整備を計画的に進めているところである。

○課題

左記のような泥炭土壌地帯での構造物も、経年変化により老朽化と路面の凹凸が著しく変化し、年々維持管理費が増大して行くことが想定される。

厳しい財政状況の中にあっても、必要最小限の整備を図って行かなければならない。

年々減額されている地方交付税が大きく影響を及ぼしている。

今後厳しい財政運営の中で地方税の増額を要望するが、どのように低コストで最大の効果を発揮させるかが今後の課題になって行くと思われる。

国、道、市町村を含め財政が厳しい中にあっても住民生活の基盤となる道路インフラ整備は重要な政策であると考えています。

本村のまちづくり総合計画が２０年度で終了するため、現在２１年度以降１０年間の新まちづくり総合計画策定中であり厳しい財政運営上、新たな新規路線の整備については厳しい状況にありますが、道路本体の老朽化に伴う２次改築を含めた維持管理も重点に計画的な整備を図り、地域における安全・安心な生活環境の確保、活力ある地域づくりを推進する

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

北海道新篠津村

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  |  |  |  |
|--|--|--|--|